

# 宮城県 公文書館だより

第6号

平成16年11月



収蔵資料の紹介「官省願伺届書」	1頁
企画展「公文書は語る宮城の災害」	2頁
明治期の宮城「県域の成立」	3頁
公文書管理保存研修会の開催	〃
宮城県の一知識「宮城県営八木山球場」 外	4頁



## 収蔵資料紹介

### 官省願伺届書

『洋学生徒江戸手当相渡候段申上置候書付』

M〇四 〇〇一六

明治新政府は、江戸を支配下におき、旧幕府直轄の学問所である昌平坂学問所・開成所・医学校を没収し、明治元年四月にそれぞれ昌平学校・開成学校・医学校とした。

翌二年六月に、直轄の大学校を創設し、その機構を定めて、昌平学校を本校（大学校「国学・漢学」）とし、また、開成学校・医学校、兵学校（軍務館所轄）を大学校分局とした。

同年十二月には、開成学校（のち東京開成学校）を大学南校、医学校（のち東京医学校）を大学東校と改称された。（明治十年四月東京開成学校及び東京医学校は東京大学とされた。）本校は、学閥の対立から、明治三年七月には閉鎖し、大学東校・大学南校の両校では国学・漢学から洋学系中心の教育が行われた。

新政府は、諸藩に指令して、優秀な生徒を選抜して、多くは社会の指導者を輩出した南校に進ませた。

上に掲げた収蔵資料には、「仙臺縣が、元仙臺藩主で洋学等の修業を申しつけた者へ支給される月々の手当金について東南両校の授業料支払いの期限規則もあり政府に伺い書を提出していたが、何の指示もないのでこれまでどおりの振り合いで支給する」との書き付けがされている。



# 宮城公文書館企画展を開催

## 「公文書は語る 宮城の災害」

～先人はいかに災害を乗り越えてきたか～

宮城県公文書館では、歴史資料として重要な公文書等を継続的に収集・保存し、開かれた県政の一環として、完結後三十年経過した文書を個人情報等に配慮しながら広く公開しております。現在、明治初期からの公文書を約二万六千冊所蔵しておりますが、これらの公文書には、宮城県における災害の記録など、様々な出来事が記録されております。

今年の七月中旬以降の集中豪雨や台風は、日本列島の各地に風水害の爪痕を残しました。宮城県におきましても、昨年の宮城県北部連続地震を含め、これまで大規模な地震・津波また大雨による水害などが発生し、大きな被害を受けております。また、平成十二年に国の地震調査委員会から極めて高い確率での宮城県沖地震（昭和五十三年六月）の再来が指摘されております。

このような状況を踏まえ、今回の企画展は、明治初期から昭和四十年代までの大規模災害を記録した公文書に焦点をあてて、地震・津波、水害・凶作そして火災に関する資料を展示し、併せて先人はこれらの災害にいかに立ち向かい、克服しながら歩んできたかを読み取っていただくようにしております。

主な展示資料としては、写真等による被災状況、災害の状況報告関係文書、災害復旧及び支援関係文書、それに津波の恐さを綴った作文や体験談などを取り上げております。



「加美郡中新田町火災関係書」



M三五〇〇一

「罹災地の小学校児童作文」



S一一二〇二

「宮城県桃生郡雄勝濱復興  
二関スル請願並二建白書」



S三三二〇二

「気仙沼の大火を知らせる電文」



T〇四二〇一九

### 開催期間

平成十六年十月二十三日(土)

～十二月二十二日(水)

毎週月曜日閉館

**入場無料**

開催場所 宮城県公文書館

三階 展示室

URL

<http://www.pref.miyagi.jp/>

[koubumn/](http://koubumn/)

# 明治期の宮城

## 県域の成立

旧仙台藩は戊辰の役の後、領地は分断されて「角田県」や「登米県」など、新しい藩と県が設置されました。

明治四年には廃藩置県が行われ、それまでの藩と県域は「仙台県」と「一関県」にほぼ統一され、明治五年一月には「仙台県」が「宮城県」と改称されるなど、何度かの県域再編成が行われ、明治九年に現在の宮城県の県域が成立しました。同年の県総人口は五八六、八四二人で総戸数は九五、一〇三戸でした。

しかし、番号制による地域区分は、なじみが薄いこともあって、明治十一年に旧集落名などを取り入れた郡町村制となりました。

下表は、宮城県の県域が決まるまでの変遷を表したものです。

なお、平成十六年十月一日現在の県総人口は、二、三七〇、九八五人（総務省人口推計年報）で、同年九月末日現在の世帯数は八六六、一四九世帯（地方行政調査資料）となっております。

### 県制変遷表

	明治元年 12月12日	明治2年				明治3年	明治4年			明治5年	明治8年	明治9年	
		3月	7月	8月	11月	9月	7月	11月	12月	1月	11月	4月	8月
村田郡													
伊豆郡	塩田藩 (新設庄・土加利藩)												
比佐郡													
幸田郡													
札取郡													
秋田													
宮城郡													
塩川郡	仙台藩 (伊達氏二郡)												
新美郡													
玉造郡													
志田ノ内													
志田ノ外													
塩田郡	土浦藩 (土浦藩・柳井藩)												
比佐郡													
新美ノ内													
新美ノ外													
本吉郡													
横手郡	高崎藩 (土浦内・土浦藩)												
村田郡													

**平成16年度公文書管理保存研修会**

日時 平成16年12月10日(金)  
午後1時30分～午後4時

場所 宮城県公文書館 大研修室

内容 講演  
「市町村合併に伴う公文書保存のためのガイドラインについて」  
新潟県立文書館 主任文書研究員 中川 浩宣 氏

情報提供  
「宮城県における歴史的・文化的価値のある公文書等の選別について」  
見学 宮城県公文書館企画展「宮城の災害」

宮城県公文書館は、公文書その他の記録・文書の保存や管理に関して、県内各市町村の現状や課題等についての意見や情報の交換を行う場として、平成十六年十二月十日(金)に市町村の文書担当職員を対象に研修会を開催いたします。今年度は、新潟県立文書館主任文書研究員の 中川浩宣氏による、「市町村合併時の公文書保存のためのガイドライン」を作成した経緯や、その内容についてお話しをしていただくこととしております。

### 公文書管理保存研修会の開催

## 宮城県の一知識

### ベーブリスのホームラン

## 宮城県営八木山球場

「プロ野球の新球団が誕生」というニュースの中で、そのホームグラウンドとなる「県営宮城球場」も全国的に大きな注目を集めるようになりましたが、昭和の初め頃にも全国にその名が知られた球場がありました。それが「県営八木山球場」です。昭和九年（一九三四）十一月九日、この球場で「日米対抗大野球試合」が行われ、このとき、アメリカ大リーグ選抜チームのベーブ・ルースが、日本の観衆の前で初めてホームランを放ったのです。当時、野球は最も人気のあるスポーツということもあり、この出来事は全国に大きく報道され、「八木山球場」の名が広く知れ渡るようになったのです。

この球場は、仙台市大町で醸造業などを営んでいた「紅久」の八木久兵衛氏（五代目）から宮城県に寄付されたもので、昭和四年（一九二九）六月二十三日、三田・稲門（慶応・早稲田）の野球チームを招き盛大に開場式が行われたことが当館の資料に記録されております。

「八木山球場」は、その後、宮城県から仙台市に移管され、まもなく始まった日中戦争そして太平洋戦争へと続く社会の混乱も影響して使用されることが少なくなり、戦後になって取り壊されてしまいました。現在、球場があつた場所は、八木山動物公園の一部となっており、ベーブ・ルースが来日第一号ホームランを打ち込んだ場所には彼の銅像が建てられております。



八木久兵衛氏からの寄付願

S04 0018

## 利用案内

### 開館時間

午前九時から午後五時まで

### 休館日

月曜日  
国民の祝日・休日  
（土曜日・日曜日に当たる日を除く）  
年末年始  
臨時休館（特別整理期間等）

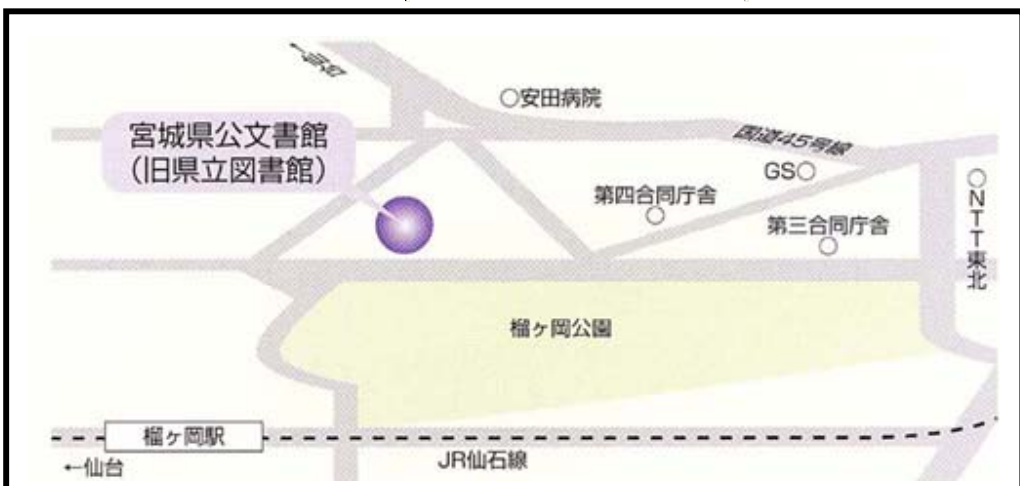
### 交通のご案内

#### 【電車の場合】

JR仙石線榴ヶ岡駅下車  
（徒歩7分）

#### 【バスの場合】

仙台市営バス「宮城交通」  
「第四合同庁舎前」下車  
（徒歩3分）



### 公文書館だより

第六号

平成十六年十一月十八日 発行

編集発行

宮城県公文書館

〒九八三-〇八五一

宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡五

〇二二-七九一-九三三三